

令和元年度 第1回 泉鳥取高等学校 学校運営協議会 議事録

学校運営協議会次第

日時 令和元年6月14日（金） 15:00～17:00

場所 泉鳥取高等学校 A棟1階 会議室

○校長室

1. 校長挨拶

○会議室

2. 出席議員・事務局員紹介
3. 本校各部（委員会）よりの報告
 - ア. 進路関係
 - イ. 生徒指導
 - エ. 保健関係
 - オ. 生徒会活動関係
 - カ. 人権教育関係
 - キ. 教育相談関係
 - ク. 学校の近況等
 - ケ. 1・2学年、業者テストの結果の傾向と今後の対策
～質疑応答～
4. 学校経営計画についての報告および協議
 - 《校長による説明、および委員による協議》
 - (1) 令和元年度学校経営計画
 - (2) 令和元年度の取り組み
5. 次回連絡ほか
 - 次回予定
 - 第2回 11月8日（金曜日）
 - 第3回 1月24日（金曜日）

1. 本校各部（委員会）よりの報告

ア. 進路関係（安田首席）

（安田首席代表が欠席のため中山首席が代理で報告）

4月から総合的な学習の時間やホームルームの時間を使って就職希望と進学希望に関して指導をしている。例えば大学進学希望であれば、これからどのような流れで受験に向かっていくのかの流れと今後すべきことを説明した。就職希望の生徒に関しては、4月に、放課後を利用して第1回就職模擬面接を実施した。面接での注意事項を指導した。具体的には、自分の長所や短所を言えるようにということと、面接室への入退出の仕方、礼の仕方など基礎的な部分を指導している。来週（6月18～21日）の第2回就職模擬面接に向けて、1分程度の自己PRを言えるようにと指導している。自己PR、つまり自分の自己分析をしっかりとさせることにより、今後自分が

どのような分野に興味があり、就職したいかが決まることに繋がると考えている。第2回就職模擬面接を行うにあたり、自己分析を200字程度でまとめさせ、担任や進路部員で添削するという指導を現在行っている。また、面接の際に、人権的な観点など所謂違反質問が来た際に、どのような対応をするべきかの指導も行っている。懇談の際には、去年の本校の就職状況などの説明をしている。

進学希望者には大学や短大、専門学校に分かれて、放課後を利用して説明会を開いている。直近の説明会では、専門学校のAO入試が始まるため、入学金や授業料の支払いが早い学校があるので、担任に報告をしながら進めるよう注意している。日本学生支援機構の奨学金は4月以降に出るため、入学金の前払いには当てられないという事例があったためその説明を懇談や説明会で行っている。

イ. 生徒指導（北岸教諭）

女子のスカート丈が短いという学校のイメージを変えたいということで、今の1年生から制服が変わり、2，3年生とは別の制服を着ている。1年生はスカート丈の長い違う制服を着ているのに、上級生は従来のスカート丈の短い制服を着ているということで、指導が難しいため1年生の教員には苦勞をした。よって、1人でもスカートを短くしている生徒がいたら放課後に1年生全員を集めて学年集会で注意をすることとした。ゴールデンウィーク前後に計2回学年集会を開き、他の生徒に迷惑がかかっているということが作用して、女子のスカート丈が規則通りの状態となりそれ以降は1回も短くしている生徒は見かけていない状態となっている。この状態を継続して、2年後には、全学年が同じ制服になったときにスカート丈を短くしない着こなしが当たり前となることを目標として指導している。

ウ. 教務関係（宮崎教諭）

①生徒の状況

在籍生徒数が2017年度と2018、2019年度を比べると減っている。これは募集クラス数が減ったことに起因する。

②本校の授業について

（1）基礎・基本の重視

本校では、基礎学力を重視している。1，2年次の選択科目は芸術以外では設けず、移動教室も少なくし、クラス単位で掌握しやすい環境下にすることで基本的な教育を行うことを重視している。

（2）少人数指導・チームティーチング

少人数指導に関して、昨年度までは、数学Ⅰの4単位の内2単位ずつに分け、片方を1クラス2展開という少人数展開をしていた。数学科からの要望もあり、今年度からは、4単位を分けずにまとめて2クラス3展開とする習熟度別の少人数展開を行うこととした。今年度からは始めていることであるため、今後挙がってくるメリット・デメリットを分析して、この展開が生徒に合う形かどうかを考えていく予定である。2年生の数学Ⅱも同様に、今年度から習熟度別で展開をすることとなった。これに関しても生徒に合う形であるならば今後も続けていきたいと

考えている。1年生の英語表現Ⅰは例年通り、1クラス2展開で行っている。次にチームティーチングに関して、2年生社会と情報と3年生の選択科目の表計算演習では、パソコンを使う授業であるため、2人で指導している。教科によって生徒の人数が多いものがあるのでその場合は2人で指導に当たっている授業もある。基本的な内容を全生徒に対して密に行うことができるよう各教員、各教科で行っている。

エ. 保健関係（宮本教諭）

毎年実施している健康診断を行った。生徒が薬物に対する正しい知識を得て、薬物の危険性を知ってもらうために薬物乱用防止教室を開いた。日々校内の清掃を徹底させている。また授業の間の休憩中に食べ物の食べ歩きを禁止を教員が廊下に立つことで注意をしている。火災や地震などの災害に向けた防災訓練も定期的の実施し、災害発生時の対応を指導している。他には、救急救命法の講習や熱中症予防講習を生徒と教員に対して行っている。

オ. 生徒会活動関係（咲花教諭）

図書自治会部では、生徒会の生徒と協力して、学校行事の企画、運営を行っている。5月に体育祭を実施した。生徒が3つの団に分かれて競技をした。3団とも有志で応援団を募り、応援パフォーマンスを実施することができた（これまでは有志の人数が少なくて応援パフォーマンスができない団がある年もあった）。団のユニフォームを生徒のデザインにより作製した。また、生徒のデザインによるうちわを作り、これらを着て団の団結力の高い体育祭に生徒たちの手によってできた。今年度は、競技の内容も一部変更し、ルールが分かりにくいなどの問題点が挙がったため、今後改善していく。また、PTA や地域の方々の協力を得て、テントでお茶の給水ブースを設けた。給水ブースでは競技の結果などの話題で PTA と生徒との交流の場となった。次は、文化祭に向けて、生徒中心での運営を行っていきたいと考えている。

カ. 人権教育関係（吉田教諭）

携帯、SNS のマナーについて最近ニュースなどでも取り上げられていることであるので、合格発表時の写真撮影に対する啓発文を作成し、入学者説明会では保護者にも携帯の使い方について話した。また入学式やオリエンテーションの際に生徒に繰り返し啓発を行った。今後も啓発を続けていく予定である。他には、人権ホームルームを行い、1年生はいじめと命、2年生は映像を用いての外国人（海外にルーツのある）生徒への人権と携帯との付き合い方、3年生は映像を用いてのデート DV について取り組みを行っている。2年生は外国人の人権を学び、本校初めての海外への修学旅行に行くため、配慮をしながら指導を行っている。

道徳教育について、年度後半に職員研修を行い、道徳教育について学び、教育に活かしていくことを検討している。

キ. 教育相談関係（大林教諭）

（大林教諭が欠席であるため近西教頭が代理で報告）

今年も昨年同様、配慮の必要な生徒に対しての支援について考えている。次回、必要なこと

があれば報告したい。

ク. 学校の近況等（近西教頭）

- ①体育祭は天候にも恵まれ盛り上がりスムーズに行うことができた。新種目についても生徒のことを考えながら教員も動き、PTA の協力もあり、無事に終えることができた。
- ②警察と連携して防犯ボランティアを行った。春の地域安全大会にボランティアで生徒が参加して、防犯を啓発する劇を行った。地域の方々も200人程度参加していただき、劇については、非常に好評であり、地域とのつながりを感じるものであった。
- ③今年度から3年間、新聞を教育に取り入れ、NIE を実践していく計画である。生徒が、記事を選び、考えをまとめ、発表して話し合いをするというようなことを行おうと考えている。
- ④7月12日に韓国人の学生30名ほどが来校される。生徒が国際交流を通して、英語等の学習に向かうきっかけ作りとなるよう計画を立てている。
- ⑤3年生は進路に向けて、2年生は修学旅行に向けて、1年生は学校にも慣れてきて、実力テストで分かった弱点（国語力・漢字など）を克服すべく指導を行っている。

ケ. 1・2学年、業者テストの結果の傾向と今後の対策

1. 学力

2年生の特徴

- ・入学時より夏までの間、全体の学力全体が上がったが、夏以降徐々に全体の学力が下がり始めている。（国数英）
- ・国数英の中では入学時点より国語の学力が最も高いが、対前回で最も平均点数が落ちている。
- ・平均点ベースで確認すると、これまでは国語→数学→英語の順だったが、今回の結果は、国語→英語→数学となっている。

1年生の特徴

- ・入学時時点の学力は、全ての科目において全体学力が去年の1年生よりも落ち込んでいる。（国数英：－6点、国語：－3.1点、数学：－2点、英語：－1点）
- ・一方でBゾーンとCゾーンの学力上位層の生徒も対策年度増えている。そのため、標準偏差（学力格差）がどの科目でも対策年で大きくなっている。

2. 学習の意欲

2年生の特徴

- ・学習意欲における学習力（教科面）では、入学時より大きな変化はないが、生活面については、入学時より夏にかけて改善されたものの、徐々に学習環境が悪化してきている。
- ・「教科学習に向かう意欲を示す授業理解姿勢について」が一貫して高い。

1年生の特徴

- ・学習力は、対策年で授業準備を除くすべての項目で高い。
- ・提出物を期限内に出す等の生活習慣や、授業理解姿勢が低く、「学ぶこと」への意義づけが出来ずにいる生徒が昨年度よりも多い。

3. 生徒の心の特性

2年生の特徴

- ・入学時時点では、自己肯定感が低い生徒が過半数でその中でも無気力な生徒が多いと言われている（途上型）の生徒が25%在籍していた。しかし、夏から秋にかけて自己肯定感の高い生徒の数が過半数を超え、途上型の生徒も劇的に減ったが、現時点では入学時時点と概ねおなじような状況となっている。

1年生の特徴

- ・対策年で比較すると、自己肯定感の高い生徒がやや多く在籍している。
- ・途上型の生徒が26%と昨年度と同程度大きい割合を占めていること、自我型が昨年度18%→26%に増加し、社会型が34%→27%まで減少した。

4. 進路希望調査

- ・進路についてはこれから考えると答えている生徒が、前回は55人から今夏が72人と増えている。入学時点では75人だったので、進路について具体的に考えるという活動が進んでいないことが指摘される。

5. 総括

テストから確認される課題点

現2年生を泉鳥取の生徒の典型ととらえると、入学してから夏までは学習意欲の改善や自己肯定感の醸成など、生徒がやる気になり、学力においても上昇した生徒が多く確認されたが、夏以降は学習習慣が崩れ無気力になり、自己肯定感が低くなっていく生徒が増えていく傾向にある。1年生の1学期に肯定的な変化がデータ上確認されるが、2学期以降はいわゆる中だるみをしているように思われる。

→1年生の1学期とそれ以降に起こる生徒の変化とその要因を定性的、定量的に整理してみてはいかがだろうか。

→進路希望調査においてこれから考える、といった層が1年生の時と2年生の時でデータ上、変化がないことは特筆すべき点だと考えられる。「学校知識離れ」が進行する昨今であるが、根本には「なんのために勉強するのかわからない」という疑問が子どもの中にあるということが指摘される。将来に対する目標を持たせること、進路について考えさせる指導というのは有効な手段と考えられる。

～質疑応答～

（質問）今年度、1年生から制服を変えた件について、近所の方々の意見を聞いてみると「見た目が変わり、落ち着いてきた。」と言われるようになっているのでその点は良かった。ゴールデンウィーク付近に、スカート丈を短くしていることで1年生全員が指導を受けているが、アルバイトをしている子については、帰りが遅いと困ると思う。また、学年集会をする意義、スカートは短くしない方が良い理由をしっかりと教えているのか。規則だから守れと上から押さえるような指導をしていないのか、短い丈だと、登下校中に襲われる危険が高まり危ないということや社会としては、スカート丈が長い方が望ましいと思われているということもしっかり教えているのか。どのような指導をされているのか。

→上から押さえつけるような指導はしておらず、しっかりとスカート丈を規定どおり守ることへの

意義についても説明している。学校というのは、授業やクラブ活動が第一優先であると考えており、学校としてはアルバイトを中心とした前提は考えておらず、まず学校生活で、集団生活で、全員でルールを守れることをしっかりと教えていきたいということを一番の前提としている。

(質問) 金銭的な面でアルバイトを強いられている生徒がいると思われるのでその点を考慮して欲しかった。

→全員を残す指導は、特別に特定の生徒のみを帰ることを許可すると、不平等感が起こり、全体に指導が行き渡らなくなるので、皆平等に指導する必要がある。集団生活の中でルールを守るという指導をしっかりとするためにも、全員を残して指導をするという点に関してはご留意していただきたいところである。

(質問) 例えば、町内に住むある人がスピード違反を起こした場合、町内全員が呼ばれて講習会を受けなければならない、となるというのと同じではないか。少し横暴だとは思わないか。納得できるような指導なのか、管理優先的な教育になってしまっていないか、心を育てる教育かどうか。を心に留めてご指導して欲しいと考える。

→(司会) 社会生活を例えとするのは、飛躍しすぎているのではないか。学校教育と社会教育は別だと考える。学校として、教育として集団生活の中で、集団でルールを守ることを教えることも大切である。体育祭でも生徒のことを考えた新競技を考えたり、生徒が自ら考えたユニフォームとうちわで応援パフォーマンスを行ったり、生徒個人を見た指導や教育を実施していて、スカート丈を1年生全体でルール守るための指導も実践している。どちらも必要であり、この学校は、これらをバランスよく指導をしっかりとしてくれていると思う。上から目線でやっているわけではなく、教育として、集団の一員として生きていく生徒の未来を考えながら指導している。ただし、このような意見は鋭い意見であるため、教員もしっかり心に留めて、直すべきところは直して、保護者と連携してよりよい指導、教育をするようにしていけたら良い。

4. 学校経営計画についての報告および協議

《校長による説明、および委員による協議》

(1) 令和元年度学校経営計画 (2) 令和元年度の取り組み

(校長) 魅力のある学校を目指す。「イズトリが変わり、イズトリで変わり、本校イズトリが変わる」ということで、入学してきた生徒が本校で成長し、社会に出たときに、本校出身者が世の中を変えていくような人材を育てたい。その中で、学校の真価を高め伝統を引き継ぐとともに、教育活動を常に見直し、深化・改善を求めてやまない学校を目指すということで、提言を行った。

その中で「たくましく生き抜く力」を付けていきたいということを大前提で「豊かな人間性」と「確かな学力」は必須事項である。よってこれらを重点的に取り組んでいきたい。豊かな人間性は、学校教育活動、現場の中で身につけていくもので、授業の中でもクラブ活動の中でも身に付けていきたいと考えている。確かな学力という部分では、分かりやすい授業をしてもらいたい、あらゆる科目において、考えたり、まとめたり、それを発表する力を付けていきたいと考えている。昨年度から、教育ボランティアが活躍している。どんな形で生

徒に無理なく力を付けていくという部分で今回話す。教科の先生にも設定面談をした際にも話をしたが、今すぐにではないが、定期考査での評価を行うという形を廃止して、細かく単元ごとに見ていくような単元テストに切り替えていきたいと考えている。それによって無駄なく最後まで指導して、細かく復習をして、再テストを行っていききたい。生徒が、無理なく学んで、力を付けていくような形を作っていきたい。これに関して、どのような問題があるか、どのようにすれば、生徒の学力が伸びていくのかを中心に話し合い、意見を頂きたい

(司会、比嘉悟様)「豊かな人間性」と「確かな学力」という2本立てで、その中の確かな学力をどのように身に付けていけばいいかという部分で、きめ細かく指導していくために、単元ごとにテストや小テストを実施し、その後も再テストを行っていくという形を作りたいという提言だったが、これに関してご意見よろしくお願いします。

(意見) 学力や豊かな心とは何かを分かってやっているかが大切だ。確かな学力と豊かな心の構造について、研究され、答えは出ている。日本の学習指導要領には書かれてあるはずであるが、その内容を達成できてない部分が多いのが現実である。知識と理解とは認知的な部分である。対人関係において、相手の心を受け入れる、相手に対して自分なりの反応を返すことができる、というコミュニケーションの部分、つまり、色々な物事について価値づけるという情動的な部分が大切である。運動の領域な部分をさらに精密化させていくような運動の部分と精神的な部分の3つの部分が、学力を形成していく。このような考え方に基づいてどのように学力を身に付けていくのかを考えていくべきである。指導要領は不親切であり、そこに関して書かれていない。学校の先生は、自ら学び続ける教員であるべきで、生徒の実情、実態を理解しなければ学力を付けることはできない。どの部分がどれくらい達成できているのか、達成していない部分はどのようにつけていくのかを考えていく必要がある。単元で知識、理解を深めることだけが学力ではないことを考えて授業作りをする必要がある。知識も必要ではあるが、単に知識、理解だけが目標というわけではない。

(司会) 知識、理解力が付けば良いというわけではなく、知識を付けて、テストでいい点を取って、いい大学に進学して、社会で活躍できる人になるかというわけではない。自ら考え、問題解決ができる人を育成するために、入試制度も変わってきている。マニュアル的な事しかできないのではなく、どのような人物に育てていきたいかを考えて、自ら考えて行動できるような人に育てるために根本から指導の在り方を考えていくべきである。

(意見) 学力には「ソーシャルキャピタル」という考え方がある。

ソーシャルキャピタルという考え方には「協働的な領域」というものがあり、信頼し合っている集団ということが挙げられている。集団の中では学力は高くなる。生徒が協力し合って、盛り上がった体育祭を行えたと言っていたが、このような体育祭や文化祭などの行事は効果的である。成果を上げる社員集団には「ワークエンゲージメント」の高い集団がある。活力があり、熱意があり、没頭して仕事をしているかということが尺度であり、これらが高いと仕事の成果が高い。これらも学校教育にもこの考え方を取り入れてやっていくべき。

(意見) 自分の大学では、新しいカリキュラムが始まった。「柔軟化」ということに重点を置き、

各学年ごとにとらなければならない単位があるという決まりを排除した。科目によっては留学などによって履修せずに単位を取ることができるシステムとした。1年生と4年生が一緒に受けている、というような授業がある。4年間を通して、ゼミに所属させている。大学は高校とは異なり個人教育も大切にしているところもある。集団で何かを行うのではなく、個人で行う場合も多い。アクティブラーニングも大切である。集団性で課題を見つけて色々な箇所から物事を考えて、自発的に行動を行なわせている。

(意見) ベネッセのテストの学力を見ると、2年生の学力は、数学→英語の順から、英語→数学となっている点について、昨年度実施されている English Café により、楽しく英語を勉強していることが考えられる。English Café に参加している生徒の英語の成績がどのくらい伸びたのかをモニタリングすると良いのかもしれない。一夜漬けの勉強は成果が得られにくく、楽しく勉強して、小テストを細かく行っていた内容は今も覚えている。よって単元テストを細かく行うというのはいい案であると考えている。泉鳥取生が小学生や中学生に勉強を教えにいったという報告があったが、エリック・エリクソンによると、誰かに勉強を教えることで自分が必要とされているという感覚が芽生え、これにより豊かな人間性のある人を育むことにつながる可能性がある。

(意見) 模擬面接はどのように行っているのかが気になる。企業に人に来ていただいて、実際の模擬面接を行うと、より緊張感を持って行えるのではないか。「単元テスト」により細かい指導を行うというのは新しい取り組みであり、行っていくと良いのではないかと考える。

(意見) 定期テストをやめるのに不安がある。段階的に理解がどのくらい進んでいるのかを知りたい(親も生徒も)。本校は、小学校の段階から躓いている子も多い。よって、その受けたショックを次の再テストの段階までの間にフォローをどのようにしていただけるのか。できるだけの手立てを考えて準備されるのかが気になる。本校の定期テストがいくらできて進学はできないという生徒の声もあり、外部のテストを受けるというのは効果的ではあり、やってほしいなと思う反面、そのフォローをしていていただきたいと考える。

食堂のアイスクリームの販売開始をしてくださり感謝している。アイスクリームは食堂内で食べる(食堂の外では食べてはいけない)という決まりがあるが、教員の監視の中でやるのではなく、自分たちで綺麗な状態で食べられるよ、というような自尊心をもって生活を送ることができるような指導をして欲しい。

(※生徒会の生徒たちが、ルールを守るとは自分たちで頑張る、ということで食堂の出口付近に自主的に立ってくれている。権利と義務、自由と責任をしっかりと考えることができる行動力のある生徒たちで、とても頼もしいと思っている: 教頭)

(意見) 単元テストにするというのは良いことである。適時適切に行うという事も大切である。何を定着しないといけないのか、どのくらい定着しているのかを確かめるのがテストであり、定期テストにこだわる必要はなく、定着度合いが上がるのであれば、単元テストを実施するのは良い手段である。

(意見) 単元テストに移行するのはおおむね賛成である。懸念事項として、テストの頻度が

多すぎると、1つ1つの重要性が薄くなる可能性がある。よって動機づけをつくる重要性を失わないようにするための仕組みをつくることが大切であると考える。

(意見) 単元テストを行うことは面白い考えだと思う。日々のテスト受けていく中で、リアクションペーパーというものを書かせてはどうか。テストの点数だけではなく、自己評価(〇〇がこれくらいできた、今日は〇〇ができた)を自分で書くと効果的である。

(まとめ、司会) 様々な提言やそれに関する質問や注意点など多くの意見が出た。単元テストに移行するという案は、既存の教育に風穴を開ける可能性があり、今後も協議員で話し合いながら、行っていって欲しいと思う。

(最後のまとめ、校長) 沢山のご意見に感謝する。現段階で、小テストや単元テストをやっている教員もいる。授業の内容を減らさないために、1時間目の前の時間を0時間目として、単元別テストとして行い、広範囲ではなく、狭い範囲なら、頑張れるという生徒も増えると思う。細かく分けて、毎日勉強するという習慣が付く可能性もある。一夜漬けでは記憶が定着しにくい。記憶をなるべく留めておけるようなシステムを作りたい。単元テストの後のケアとして、復習した後に再テストを受けられるようにしたい。点数の良くなかった生徒は、もう一度根勉強して、再テストを受けて、点数が上がれば上がった点の方を採用するという形が良いと考えている。点数の良かった生徒も再テストを受けて良いこととして、再テストを受けて、点数が前よりも下がった場合は、前の良い点数を採用してあげれば、点数の良かった生徒も良くなかった生徒も意欲的に学習に取り組むのではないかと考える。最終的な目標として、国際世界で活躍する生徒を育てるという事である。活躍する改善点などを皆様と話し合いながら、実践できればと思う。

5. 事務局より次回の連絡ほか

次回予定

第2回 11月8日(金曜日)

第3回 1月24日(金曜日)